

子どもの叱り方・褒め方 自信につなげる工夫を



叱り方と褒め方について
アドバイスする杉山幸子
教授

八学短大・杉山教授

青森県南のママたち取材
すると、叱り方については
「子どもに何度注意しても同
じことを繰り返す」という悩
みが多かった。けがにつな
がる危険な行動をしたり、周
りに迷惑を掛けたりした場
合、強い口調で怒っても直ら
ないと「ちゃんと分かっている
のかな」と不安に感じるよ
うだ。

杉山教授は「子どもは自分
がした行動と、親が怒ってい
ることの関係を実は分かっ
ていないのかもしれない」と
いう行動そのものについて注
意するの大切だという。

一方、子どもの褒め方につ
いては、ママたちから「お片
付けなど、普段は自分からや
らないことを頑張ったとき
に、褒め言葉に気持ちを込め
て伝える工夫として、杉山教授
は「話し手(親)を主語とし
た『メッセージ』が効果的」
と話す。例えば、「お手伝
いをしてくれて、ママはすこ
助かった」のように感謝す
れば、子どもの自信につな
がる。まだ言葉を理解できな
い小さい子どもに対しては、
抱き締める、頭をなでるなど
スキンシップをするだけで気
持ちは十分伝わるという。

「どこが悪いのか、ど
うすれば良かったのかを、具
体的に伝えてみて」とアドバ
イスする。また、「どうしてそんなに
悪い子なの」といった子ども
の人格を否定する叱り方をす
ると、嫌な思いしか与えない
場合も。冷静に、直してほし
い。

「(30歳主婦)など、自分なり
の工夫が聞かれた。叱り方に
比べると悩みは少ないようだ
が、「掛ける言葉がワンパタ
ーンになってしまう。どのよ
うに褒めたら喜んでくれるの
かな」(39歳パート)との声
も。

失敗を叱るだけではなく、
何か褒められる部分を探すこ
とも大事だ。杉山教授は「で
きて当たり前のように思われ
ることも、認めてあげて、
褒めるのを忘れないでほし
い」と助言する。